

2018 年度 経済地理学会名誉会員候補者
寺阪昭信会員

名誉会員推薦理由

寺阪昭信会員は常に新たな研究課題・研究テーマに取り組み、多くの研究成果をあげてきた。その視野の広さは文献検索をすれば明らかであるが、下記のように経済地理学をより広い分野に架橋する重要な業績をあげた点で学界に多大な貢献をなした。

第一には、行動論や情報化に関する研究に逸早く取り組み成果をあげたことである。特に『空間と行動論：地理学における行動論の諸問題』（地人書房、1987 年刊）、『情報化社会の地域構造』（大明堂、1989 年刊）をそれぞれ監訳者また編著者の一人として刊行し、この方面の研究を積極的に推進した。

第二には、トルコを中心とした海外都市研究の成果があげられる。『イスラム都市の変容：アンカラの都市発達と地域構造』（古今書院、1994 年刊）においては編者として、都市地理学と海外地域研究の架橋を試み、今日多くの注目を集めるイスラム都市について先駆的業績をあげた。いわゆる「地域研究」とは一線を画した人文・経済地理学者としての海外研究の視点は貴重である。

第三には、観光地理学への寄与があげられる。世界・日本の各都市を見つめてきた成果を、単著『観光地理学：世界と日本の都市と観光』（古今書院、2009 年刊）に結実させている。

さらに付言すべきは、1975 年発足の地域構造研究会の呼びかけ人・世話人として同研究会の運営に献身的に寄与したことである。日本の地域構造シリーズ 1（『地域の概念と地域構造』）・4（『流通・情報の地域構造』）の編著者の一人として、経済地理学に対して行った貢献は特筆に値するものである。

同会員は 1939 年徳島県生まれであり、京都大学大学院文学研究科博士課程中退後、埼玉大学教養学部、東京都立大学理学部を経て、流通経済大学経済学部で研究・教育に従事し、退職後流通経済大学名誉教授の称号を授与されている。本学会には 1965 年に入会し、その会員歴は 50 年を越える。また、1971～1990 年度まで幹事（8 期連続）の役職にあり、その間の 1985～87 年度には代表幹事（1 期）を務めた。その後も、1991～99 年度には評議員（3 期連続）、2002～03 年度には関東支部長（1 期）を務め、学会運営に多大な貢献をなしている。

以上のように、寺阪昭信会員による長年の学界・学会活動への貢献・功績は名誉会員にふさわしいものであり、ここに名誉会員として推薦する。

経済地理学会名誉会員推薦委員会

岡橋秀典（委員長）、伊藤健司、加藤幸治、高柳長直、根岸裕孝、初澤敏生、水野真彦、宮地忠幸